

令和7年2月7日

福生市長
加藤 育男 様

福生市環境マネジメントシステム監査チーム

代表監査委員

小本 忠

副代表監査委員

大井 翔子

小泉 洋司

小澤 はる奈

点検・評価報告書

1. 日時

令和7年2月6日（木）・7日（金）

2. 対象

企画調整課、総務課、総合窓口課、シティセールス推進課、リサイクルセンター、障害福祉課、健康課、子ども政策課、まちづくり計画課、教育総務課、防災食育センター、福生第三小学校、福生第三中学校、郷土資料室、白梅会館

環境推進委員会（市長・副市長・教育長及び部長・参事（書））、事務局

※（書）は書面監査対象

3. 点検・評価結果集計

	F-e取組項目	高評価	改善 要望
1	各職場において環境配慮行動を実践する	エネルギーの使用量を削減する	
		紙の使用量を削減する	5
		ごみの排出量を削減する	3
		水の使用量を削減する	
		物品を購入する際に留意する	
2	市内の移動には公用自転車を活用し、市外への出張の際は公共交通機関の利用、オンライン会議システムの活用を検討し、公用車の使用機会を抑制する		
3	やむを得ず公用車を使用する際は、エコドライブの実践を徹底する		
4	福生市の環境面での基本方針である「福生市環境基本計画」や「地球温暖化対策実行計画」およびそれらの目標を認識する	1	
5	日常の事務活動によって地域の環境や地球環境にどのような影響を及ぼしているのかを認識・理解する	1	
6	市議会議員、非常勤職員、庁舎・施設に常駐・常在する事業者等に対し、環境配慮の要請を行う		
7	庁舎・施設に出入りする事業者等に対し、環境配慮の要請を行う		
8	公共施設の利用者に対し、環境配慮の要請を行う		
9	公共工事等の際に環境配慮に取り組むとともに、調達時にはエネルギー消費量や排出係数が低減する手法を検討する		
10	環境に関連する計画について内容（策定中の場合は途中経過）を公開・提供する		
11	計画の策定や改定の際には環境配慮を土台とし、立案・策定段階から市民参加の機会を設ける		
12	環境を保全・改善する施策・事業（公園・緑地・水辺整備等）について、その内容を公開・提供する		
13	環境影響事業について、環境に影響を与える内容（騒音・振動、廃棄物の排出、自然の減少など）を公開・提供する		
14	施設のエネルギーを管理する部署・施設では、エコチューニング等の運用改善手法を最大限に実施し、その結果を検証する		
15	日常の事務活動を通じて実践できる環境配慮行動や、市民等と協働して取り組む環境保全活動、環境に関する情報発信や環境学習に努める	5	
合 計		15	0

4. 総合所見

福生市環境マネジメントシステム(F-e)の令和6年度取組状況の点検・評価を実施しました。

昨年度まで実施していた「環境監査」と「優良取組選定」を一本化し、「点検・評価」としてトップの方針に基づく取組状況や運用状況の点検を行うとともに、水平展開が望まれる環境負荷低減をはじめとした良い取組の抽出を行うことを目的として実施しました。

その結果と所見は以下のとおりです。

(1) 各実行部門における取組

高く評価された取組は15件で、改善要望は0件であり、全体として取組状況が良好であることを確認しました。

評価件数が多かったのは、F-e 取組項目の No. 1「紙の使用量を削減する」、No. 15「日常の事務活動を通じて実践できる環境配慮行動や、市民等と協働して取り組む環境保全活動、環境に関する情報発信や環境学習に努める」の5件でした。このうち No. 15 は、環境配慮行動や環境問題等に関する情報発信や学習機会の提供、市民等と協働した取組なども含みます。選定された取組の概要は以下のとおりです。

- ・ 都知事と区市町村長の意見交換において F-e を紹介、その模様を YouTube で公開した（企画調整課）
- ・ 七夕まつりの イベントとしてチーム競技形式でのごみ拾いを行い、ごみ問題や美化への意識啓発をした（シティセールス推進課）
- ・ 生徒会の主導で生徒のボランティアを集め、地域の団体と協働して学校周辺の落ち葉掃きを実施している（福生第三中学校）
- ・ 環境学習への継続的な意識喚起を狙い、参加するとシールがもらえて景品と交換できるクイズを毎週実施している（郷土資料室）
- ・ 実際の災害現場の経験から、複数種類の段ボールベッドを組み立てる体験を含む防災講座を実施した（白梅会館）

第2次福生市環境基本計画（以下、第2次基本計画）の策定を受けて、「エコシティふっさへの機運醸成にむけて、環境に関する取組の発信、協力連携による発展に努める」ということをF-eの環境協働分野の目標としています。今回の点検・評価で見出された取組は、環境協働をより深化させるものです。上記の取組例の下線部分を軸にアレンジすることで、他の部署・施設でも類似の取組が展開できる可能性が高いと思われます。

また、リサイクルセンターでは従来方式に比べCO2排出量を60%削減できる水平リサイクル（ペットボトルからペットボトルへ）の採用が決まったり、子ども政策課では施設機能の変更に合わせて照明のLED化を図ることを決めたりと、各所管の本来業務の中で脱炭素社会の実現に資する動きが見られたことも印象的でした。全庁的に推進されているDXの動きの中で、市民の利便性向上と業務の効率化・質的向上が実現し、これと同時に紙の使用量が大幅に削減された例も複数みられました。

取組そのものは各部署・施設の特性を反映した独自性のあるものが多いですが、その考え方を採り入れることで多くの部署・施設で応用できると思います。本報告書に掲載した取組事例に学び、優良な環境配慮取組が水平展開されることを望みます。あわせて、取組の様子をあらゆる部署・施設から発信していくことで、市民や事業者の関心を高め、行動変容を後押しできることを期待します。

（２）三役監査

○市長

2050年の脱炭素を念頭に置いて職員の意識や取組を大きく変化、加速化させることを意図した方針を掲げ、「脱炭素マインド」を庁内に落とし込もうとされていることが理解できました。環境配慮型設備への更新や公用車への電気自動車の導入が進んでいること、またDXと関連づけた取組により、利便性向上や業務の効率化と環境負荷低減を同時に実現していることも紹介されました。こうした動きは、各実行部門に対する点検・評価の中でも多くの事例が確認でき、市長の方針が現場の動きにしっかり根付きつつあることが感じられました。

一方で、市の施設だけで取り組んでいても脱炭素の実現には限界がある、市内事業者や市民にも広がっていかなくてはならないとの話もありました。F-eのあり方を考える必要があると感じました。

さらに、脱炭素に大きく関わるごみにまつわる諸問題（エコセメント施設の建て替え費用、転入者や外国人住民に対するごみ分別・排出ルールの理解促進など）についても述べられました。市民への意識づけは進んでいる自治体であると思いますが、市民・事業者も含め、脱炭素社会の実現に向けた意識と行動の転換を、総合的に進めていく必要性を感じました。

○副市長

市有施設が調達する電気について、再生可能エネルギー比率35%以上とする仕様を定め運用しているとの言及があったことに、大きな意味を感じました。新しい技術の導入は、当然F-eの推進になるとのことで、今年度は本庁舎においてESCO事業による空調機器の更新と照明のLED化も図られています。このことから、F-e事業が強く推進されていることが確認できました。施設改修や設備更新にかかる費用の平準化については、今後も課題としていただきたいと思います。

計画の目標達成には優れた環境配慮行動の水平展開が必要であること、市だけではなく、市民や事業者とともに進めていくこと、また動画やSNSを使った情報発信が必要であるとの言葉に共感しました。エネルギー機器の高効率化を推進することにも期待します。

○教育長

脱炭素に向けた施設運営と環境配慮行動の発展がポイントと捉えていらっしゃると思います。教育部が所管する施設は大変多いため、脱炭素に向けた取組を施設が率先して行うことは効果的で

あるとの考えは監査チームとしても共感でき、積極的に進めていただきたいと思います。今年度も教育部共通のポスターを作成しています。児童・生徒や施設利用者も含め、施設に関わるすべての人が考え・行動するきっかけを積極的に発信する取組を、今後も継続して実施してほしいと思います。

C02 削減に即効性があるとはいえないが、次世代を担う子どもたちの育成が大切であるとの考えも示されました。環境問題に対する意識の醸成や主体的に環境配慮行動を实践できる担い手づくりをすることは、教育委員会として重要な役割であり、さらに発展していくことに期待するとの言葉がとても印象に残りました。施設管理と人材育成の両面から推進していただくことに期待します。

(3) 事務局監査

F-e に関する会議等の開催状況や庁内での研修・情報共有に関する状況、市民等への波及に関する状況を中心に、設定した部門別目標に向けた具体的な仕組みや働きかけについてヒアリングを実施しました。ヒアリングの結果、F-e の推進に関する事務局業務が適切に実施されていることを確認しました。

今年度は第2次基本計画および第5次福生市地球温暖化対策実行計画（以下、第5次実行計画）のスタート年度であったことから、新計画の目標やポイント、トップ方針の周知が課題でした。庁内に対して動画研修などを実施し、その後の職員アンケートでは、市長の方針や第5次実行計画のポイントについて8割前後の正答率を確認できたとのことで、事務局からの情報発信は一定の成果を挙げたとみられます。一方で、今年度から導入した目標値・参考値・想定値については、まだ十分な理解が浸透していないようです。各実行部門に丁寧な説明を続け、納得感を持って取り組んでもらえるよう働きかけていただきたいと思います。

また、様々な連携による取組の発展を目指した年度でもありました。この点に関しては、他部署からの紹介で ECO FRIENDLY 認証店の新規登録があったことや、従来は子ども応援館で時期を限定して実施していた子ども服の回収活動が教育支援課と連携することで随時実施できるようになったことなど、庁内の横の連携で活動が発展した事例が紹介されました。長年の取組の成果により、他部署の取組を知り、所管業務との関連を想起できたことで連携につながったものと思われます。

この連携・協力の体制をさらに充実化させるためには、市民団体や民間企業の取組、他地域の事例を知る機会も有効と考えます。市民団体や事業者が発表する場の設定、事務局が他地域の取組を学ぶ機会づくりを、より一層積極的に進めていただくことを期待します。

市有施設における取組が成熟してきた今、これまでの経験をいかに市民・事業者の意識変革や行動変容につなげていくかを考え、シフトチェンジすべき時期に来ていると思います。市民参加で取り組む F-e のあり方をどのように変えていくべきか、また環境人材の育成と活性化の方策について、監査チームとしてもよく検討し、取組の持続的な発展につなげていきたいと思っています。

5. 項目ごとの所見

監査チームが高く評価した取組を、F-e 取組項目ごとに整理しました。当該実行部門での実施内容と、他の部署・施設で採用（水平展開）する場合のポイントをまとめました。

	F-e 取組項目
1 ②	各職場において環境配慮行動を実践する ■紙の使用量を削減する

総合窓口課
（担当：3 班）

【実施内容】 転入者へのご案内の冊子、チラシを廃止し、QR コードから情報をとれるよう電子化しました。複数の冊子・チラシの電子ファイルにリンクする QR コードを 1 枚のチラシにまとめたため、相当な量の紙削減ができました。情報が 1 枚に集約されたため、転入者にとっても利便性が向上している点も評価します。

【水平展開のポイント】 多くの人に共通して確認してほしい情報を一括して知らせるには効果的な手法と考えられます。

子ども政策課
（担当：2 班）

【実施内容】 子育てまる得カードの電子化は、令和 6 年 3 月に受付開始しています。638 件のうち、280 件が紙、電子が 358 件でした。今年度は 1 月までで、全体 309 件のうち電子は 293 件となり、ほぼ電子化されました。市民に素早く周知され、電子化への移行がスムーズに進んでいることも評価します。紙を持ち歩く必要もなく、LINE からすぐ展開できるため、利便性もかなり高くなったようです。

【水平展開のポイント】 紙媒体のツールを電子化することと合わせて、ターゲットになる利用者層に情報を届ける工夫がなされると、スムーズに普及していくと思われます。

まちづくり計画課
（担当：1 班）

【実施内容】 まちづくり景観推進連絡会では、使用する紙を極力抑え、開催通知や議事録はデータ送信しています。最近では会員が撮影した景観関連の動画を観ながら情報交換を行うなど、電子データの活用により、環境に配慮しつつ充実した会議運営が行われています。

【水平展開のポイント】 動画・写真などの電子データを活用できるようになったことで、議論の質も高まることが期待できます。行政側が用意した資料だけでなく、市民を含む会員が持つデータも活用し、情報の充実化を進められると良いでしょう。

教育総務課

【実施内容】 特に紙の削減を掲げており、達成に向けて順調です。教育

(担当：2班) 委員へのタブレット端末の導入も成果を上げています。例として令和7年1月教育委員会では、資料として、従来ならば193Pの資料を10セット印刷する必要があったが、タブレットの使用により紙の印刷がなくなりました。タブレット使用に際しては職員の細やかなフォローもあり、順調に委員に使用してもらっているとのこと。業務効率的にも効果が大きいと考えます。

【水平展開のポイント】タブレット端末などのツールは、導入当初は扱いにくいと感じる方もいますが、職員が丁寧に寄り添うことで活用が進んでいます。紙資料から電子データへの切替だけでなく、会議日程の調整や意見表明等もオンライン上で行うことで、業務効率を大きく向上させています。

福生第三小学校 (担当：2班) 【実施内容】個人情報のあるものは、色紙を使用すると決めていることです。やむを得ない場合以外では色紙の使用を徹底しているため、基本的に混入することはありません。ファイルも、色のファイルを使うと決めているそうです。そのため、裏紙利用の際に個人情報を含む紙が使われてしまうことはありません。視覚に訴える方法で、大変良い取組だと感じました。

【水平展開のポイント】裏紙利用に際して個人情報の取り扱いミスを防ぐ、明確で分かりやすい仕組みです。OFFにしてはいけないスイッチ、リユースに回してはいけない書類などを判別することにも応用できそうです。

	F-e 取組項目
1 ③	各職場において環境配慮行動を実践する ■ごみの排出量を削減する

障害福祉課 (担当：3班) 【実施内容】定期的に職員間で情報共有しながら、再使用・リサイクルに積極的に取り組んでいます。段ボールで窓口案内板や棚などを作っており、利便性や頑健性も考慮した工夫が見られます。封筒や裏紙も鉛筆・消しゴムを使用し、再使用しやすいようにしています。再使用・リサイクルを進めようとする細やかな工夫が多数なされていることを評価します。

【水平展開のポイント】段ボールなどの廃材をうまく活用するため、職

員間でアイデアを出し合って工夫しています。家庭や事業所でも同じような取組が可能であり、市民向けの発信があっても良いかもしれません。

防災食育センター
(担当：1班)

【実践内容】給食の調理くず・残菜などの残渣は敷地内の設備で消滅処理していたが、設備容量を超える残渣は焼却処理していました。この一部をバイオガス発電所（羽村市内）に搬入し、再生可能エネルギー資源として有効活用を図っています。搬入量は週2日分程度です。

【水平展開のポイント】大量の食品廃棄物が発生する施設ならではの取組です。他の公共施設というより、市内の食品関係事業者においても参照していただきたい取組といえます。

福生第三小学校
(担当：2班)

【実践内容】各教室では、ごみは燃えるごみとその他で分けています。これを教室の一部を利用したごみステーションに持ち込み、そこで最終的な分別を行っています。何のごみの回収箱か一目で分かるため、分別が分からずとも問題ない作りとなっています。特にごみステーションは、非常に細かく分別されている様子が見受けられ、かつ児童にとっても分かりやすいもので、とても良い取組だと感じました。

【水平展開のポイント】複数の部屋（教室）を有する施設では、各部屋で生じるごみは簡易的な分別をし、集積所にてより細かい分別を行うところもあります。誰が見てもどの種類の資源・ごみを保管するのかが分かるように整備することで、最終的な分別の負担を減らすとともに、施設の職員や利用者、児童生徒の意識づけにもつながると思われます。

	F-e 取組項目
4	福生市の環境面での基本方針である「福生市環境基本計画」や「地球温暖化対策実行計画」およびそれらの目標を認識する

子ども政策課
(担当：2班)

【実施内容】市長・副市長の方針を受けた子ども家庭部長の「児童館等の施設改修を活用して脱炭素化の促進と事務手続きのDX化推進」という方針を受けて、武蔵野台児童館の一部を多文化キッズサロンとして改修する事業について、職員から同時にLED化など省エネ化を図る提案がありました。方針への職員の理解があったからこそ提案されたものであり、職員も同じ目線で進めていることが感じられました。

【水平展開のポイント】施設整備の補助を活用できるタイミングで設

備の省エネ化を図ったものです。省エネ改修が主目的でなくても、補助金等を利用できる際にあわせて高効率化を図れる設備がないか、十分に検討していただけると良いと思います。

	F-e 取組項目
5	日常の事務活動によって地域の環境や地球環境にどのような影響を及ぼしているのかを認識・理解する

リサイクルセン
ター
(担当：3班)

【実施内容】持続可能な循環型社会の実現のため、有効なリサイクル方法を調査検討した結果、従来のペットボトルリサイクル方法よりもCO2が約60%削減できる水平リサイクルを令和7年度から実行することとしました。

水平リサイクルはペットボトルからペットボトルにリサイクルするもので、資源の価値を落とさずに循環利用できるものです。

リサイクルのレベルアップを実現したことを評価します。

【水平展開のポイント】市の環境基本計画と国・世界の方向性を踏まえて、リサイクルのあり方を大きく転換するものです。リサイクルセンターでしかできない取組ですが、水平リサイクルに適した資源回収ができるよう、ペットボトルの回収ボックスにラベル・キャップを分けるよう表示するなど、各施設でもこの取組を支えることは可能と考えられます。

	F-e 取組項目
15	日常の事務活動を通じて実践できる環境配慮行動や、市民等と協働して取り組む環境保全活動、環境に関する情報発信や環境学習に努める

企画調整課
(担当：1班)

【実施内容】令和6年10月10日に都内62区市町村が参加した「知事と区市町村長との意見交換」で、福生市としての取組として市民参加型の「F-e」の運営を紹介しました。この模様はYouTubeで公開し、市民および市外への情報発信ができました。

【水平展開のポイント】F-eでの環境配慮の取組、市民と協働した取組であることを発信できる、貴重な機会を活かした取組でした。各部署・

施設からも、折に触れて F-e についての情報発信を心がけていただけると良いと思います。

シティセールス
推進課

(担当：1 班)

【実施内容】第 74 回福生七夕まつりにおいて、スポ GOMI 大会を実施しました。これは、制限時間内に決められたエリア内でごみを拾い、その質と量をポイント化してチームで競う、ごみ拾いとスポーツを掛け合わせたイベントです。13 チーム 48 名が参加し、100.52kg のごみが回収されました。これは、七夕まつりにおいて以前よりごみの問題が課題であったことから、会場周辺の住民や市民への周知も含め第 73 回から実施しているものです。環境配慮に寄与する取組として、さまざまな工夫をして実施、参加者だけでなく周りの人も巻き込み、意識啓発を図っていることを評価しました。

【水平展開のポイント】ごみ拾いとスポーツを掛け合わせた取組です。美化活動・環境活動を前面に出すのではなく、スポーツやレクリエーションなど楽しむ要素を強調することで、多くの参加者を集めることができると思います。チームで競うという競技要素も、興味関心を集めるには有効と考えられます。

福生第三中学校
(担当：3 班)

【実施内容】11 月～12 月に、生徒が近隣の落ち葉掃きを実施しています。校内、せせらぎ遊歩道、富士見公園で行っており、老人会とも協働して、美化活動を地域に広げている。生徒会が主体となり、土日に生徒からボランティアを募集して行っています。

【水平展開のポイント】生徒会が主導して生徒からボランティアを集め、地域の団体と協力して活動を継続しているものです。生徒の自主性を尊重しながら、活動を地域の大人が支えるという形で、様々な学校での活動が活性化していくと良いと思います。

郷土資料室
(担当：3 班)

【実施内容】中央図書館裏の文化の森で、文化財保護審議会委員の野村委員による自然観察会を、小学生と保護者対象に季節を変え、年間 2 回実施しています。また郷土資料室では、小学生対象に毎週クイズを行い、シールを渡しています。3 枚集めると絵葉書、30 枚で記念品と賞状がもらえるものです。子どもたちにとって環境学習の意識づけになればと考えて実施している事業です。その他ガイドツアーには内容にもよるが、合計 60 名程度の参加があるとのこと。

各事業には常連の受講者もいるとのことで、続けていただきたいと思っています。

【水平展開のポイント】市内のフィールドで、市民を講師として充実した自然体験が実施されています。シールを集めるという工夫がなされていることで、子どもが繰り返しクイズに参加する動機づけになっています。環境への興味・意識を継続することで、学習の深まりや実践活動につながることを期待できます。

白梅会館
(担当：1班)

【実践内容】体験型防災講座にて、震災や台風対策の避難所に必要となる段ボールベッドの組み立て方の体験を通して、防災意識の向上を図りました。能登半島地震での経験から、種類の異なるベッドを組み立てることで、その難しさや環境変化で起こるであろう対応を学ぶ機会となったようです。講座のブラッシュアップをし、防災対策を自分事化する工夫をしていることを高く評価します。

【水平展開のポイント】段ボールベッドの組み立ては防災訓練などでも実施されているようですが、実際の災害の経験から学び、複数種類の組み立てを体験する内容にしていることが意義深い取組です。町会・自治会等で実施する訓練でも類似の取組ができるよう、体験用の段ボールベッドを複数種類用意しておけると良いと思います。

※「特に高く評価したい点」として選定した取組以外にも、監査チームから所見を付しています。個別にフィードバックする所見票で確認してください。